

2022年09月13日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【今日は、米国CPI】

本日(2022年9月13日)は、米国経済指標の「消費者物価指数(CPI)」の発表を控えている。

+++++

「消費者物価指数(CPI)」はインフレ指標の代表であり、米国のインフレがどの程度であるのかを判断するには、最重要の経済指標と言える。

だから、マーケット(市場参加者)は、最大限に注目している。

金利が上昇する局面では、「米国雇用統計」よりも注目度は高い、と考えます。

+++++

+++++

ジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演に関して述べておきます。

パウエル議長の発言内容は、「インフレを根絶するために利上げを継続する」ということ。

そして、「金利を高い水準でしばらく維持する可能性が高いこと」を示唆した。

ジャクソンホールでのパウエルFRB議長の発言内容は、米ドル政策金利を引き上げて、その金利を高止まりさせるということであり、基本的には「ドル買いの材料」になっている、と考えます。

+++++

さらに、パウエルFRB議長は、次回のFOMC(=つまり、今月9月20日、21日のFOMC)で、「異例に大幅な」利上げを、もう一度実施する可能性もあり得る、換言すれば、0.75%の利上げの可能性もあり得る、と改めて述べた。

ただし、確実に実施するとまでは明言しなかった。

今月9月のFOMCでの利上げ幅は、今後のデータ(=今後発表される経済指標)に左右される、と述べた。

+++++

+++++

本日（2022年9月13日）発表される「消費者物価指数（CPI）」は、上述の「今後のデータ」の代表的な経済指標と言える。

そして、本日の「消費者物価指数（CPI）」は、前回のCPIに比べると、幾分鈍化している（＝インフレが収まっている）、といった事前予想が大勢を占めている。

しかしながら、パウエルFRB議長の発言を踏まえると、本日の「消費者物価指数（CPI）」が、驚く程のインフレ率低下を示す内容でない限り、次回のFOMCでは、0.75%の利上げの可能性が高いままだ、と考えます。

+++++
+++++

（2022年09月13日東京時間15：00記述）